



左上から時計回りに：狐、狨（ちん）、カニ、狛犬、鳥、宝船、だるま、鯛、福助、布袋、天神

日本の  
郷土玩具ばなし  
紅・文 佐々木一澄

第8回 富山土人形（富山県）  
「福徳人形」

親指ほどの小さな人形。かわいい……とつい声が出てしまうような愛らしさに満ちています。富山土人形の福徳人形です。

富山土人形は嘉永年間（1848～1854年）、藩主前田利保（まへだとしやす）により、富山の産業開発のため招かれた名古屋の陶工が窯を築き、その子が仕事の傍ら作ったのが始まりといわれています。藩の経済政策としても土人形作りが奨励され、民間信仰、節句などの行事にちなんだものが多く、前田利保の遠祖に「天神様」として信仰される菅原道真（すかわけのみこと）がいるため、天神をテーマにした土人形が多く作られています。

そんな富山土人形も明治に入ると衰退し、さらに第二次世界大戦の空襲により、多くの窯元が姿を消してしまいます。しかし、たったひとり残った作り手である渡辺信秀（わたなべのぶひで）さんが精力的に人形作りをしたことで生き延び、現在は渡辺さんの元で学ばれた土雛（つちひな）窯の皆さん、地元の伝承会の皆さんに引き継がれ、楽しい人形作り続けられています。

富山土人形には面白いものがたくさんありますが、中でも駄菓子のおまけとして作られ、福徳袋（お年玉袋のようなもの）に入れられた福徳人形は特別です。動物たちに、天神、布袋、福助、宝船など縁起の良いモチーフが20種類以上。当時の子どもたちは、この福徳欲しさに駄菓子をねだったのでしょう。タイムスリップしてその様子を見てみたいものです。

佐々木一澄（ささきかずと）

1982年東京生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。雑誌、書籍、絵本などの仕事を中心に活動。絵本作品に『からだあいうえお』（保育社）、『うみとりのくからだのはなし』（童心社）など。著書に『てのひらのえんぎもの』（二見書房）、『こけし図譜』（誠文堂新光社）。



Planet VAN VAN  
2024 Winter Vol.141  
2024年1月1日発行

発行／株式会社プラネット  
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目31番 文化放送メディアプラスビル3階  
<https://www.planet-van.co.jp/>

■ 発行人／坂田政一 ■ 編集制作／株式会社ダイヤモンド・リテイルメディア

送付先変更などのお問い合わせ先

プラネットコールセンター Tel.0120-023-811 Mail:sc@planet-van.co.jp



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用